

平成30年度第2回富士見市いじめのない学校づくり委員会 会議録要旨

【日時】平成30年10月1日（月）14:00～16:30

【開催場所】富士見市教育委員会会議室

【出欠状況】

小林	塚田	発田	長堀
○	○	○	○

【事務局】

学校教育課長 指導主事1名

【次第】

- 1 開 会
- 2 教育委員会あいさつ
- 3 委員長あいさつ
- 4 報告事項
 - (1) 平成30年度富士見市立学校におけるいじめ等の状況について
 - (2) 平成30年度スマートフォン等に関する調査結果について
- 5 議 題
 - (1) いじめのない学校づくり子ども会議について
 - (2) いじめのない学校づくりに向けた各学校における取組について
- 6 事務連絡
 - ・平成30年度富士見市いじめのない学校づくり子ども会議
平成30年11月14日（水）10:00 富士見市立総合体育館多目的室
 - ・第3回富士見市いじめのない学校づくり委員会
平成31年 2月 4日（月）14:00 富士見市教育委員会会議室
- 7 閉 会（副委員長）

【議事】

(1) いじめのない学校づくり子ども会議について

【事務局】 11月14日にいじめのない学校づくり子ども会議が開催される。小学校部会では、「小学生宣言」の一つについて「できている」「できていない」について考え、これからどうしていくべきかを議論する。中学校では、いじめる側にならないために、「～になります」「～します」等の実行委員会版・行動宣言を考えていきたいと考えている。今後、どのような話し合いをすることが望ましいかご意見を伺いたい。

【委員】 傍観者となっている立場の子が、いじめている子に注意するのは、現実的にはなかなか難しいのではないかと。

【委員】 どの程度、子ども宣言の内容ができているのか振り返ってみてはどうか。

【委員】 私はこんな時、「〇〇で支えられた」「〇〇で救われた」「〇〇がうれしかった」等、子どもたちが実際に体験したケースをまとめることから始め、そこから、自分達はどのように行動すべきなのかを議論していくとよいのではないかと。

(2) いじめのない学校づくりに向けた各学校における取組について

【事務局】 各学校では、いじめのない学校づくりに向けて、児童生徒が中心となり、様々な活動をしている。効果が期待できる取組や工夫の仕方について、ご意見をいただきたい。

【委員】 どの取組も初めのうちは、教師、児童生徒の意識が高く、熱意のある取組がなされるが、時間が経過するにつれて、マンネリ化し形骸化する傾向がある。

【委員】 異年齢が毎日一緒に登校する、「通学班」活動を大切にしてもらいたい。上級生は班員の面倒をみる中で、下級生は上級生の後姿をみる中で、それぞれが成長するものである。

***ピアサポート活動について**

【委員】 ピアサポーターとスクールカウンセラーの連携を図り、相談の聴き方やサポート方法など、スキルアップにつなげてもらいたい。

***遊びについて**

【委員】 縦割り班遊びや兄弟学級での遊びはとてもよい。定期的に遊ぶ時間を設ける取組が効果を上げている。

(3) その他

- 【委員】 いじめの認知の仕方について、積極的にカウントしている学校のシステムを紹介し、どの学校でも同じような認知ができるようにしていく必要がある。
- 【委員】 いじめ防止、減少に向けて、どのような取組・指導が効果的であったのかしっかりと検証してみるとよい。
- 【委員】 いじめの認知が少ないと不登校が多くなる傾向がある。
- 【委員】 30日以上長期欠席者の「病気」の児童生徒に関して、しっかりと医者の診断があるかどうか確認してほしい。
- 【委員】 5・9・10・1月に欠席者が多い傾向がある。主に、前月に「病気」で3日以上休んだ児童生徒には、月初めに声を掛け、不登校を未然に防ぐようにしていくとよい。
- 【委員】 子どものスマートフォン等の利用について今後心配を感じている保護者が多いのにも関わらず、家庭でのルールを決めていない家庭が多いので、どのような決め事をしたらよいのかお知らせしたらどうか。
- 【委員】 「悪いことを正す」ことより、「何かへのめりこむような」仕掛けや取組があるとよい。